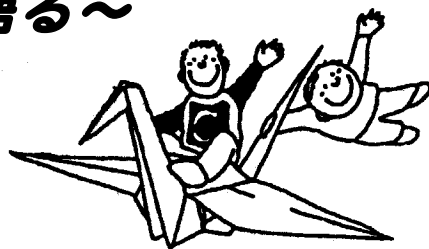


—チェルノブイリとフクシマを結んで—

チェルノブイリ原発事故33周年の集い

フクシマ事故8年,これからも共に歩むために

～フクシマの想いを聞く・語る～



2019年4月21日(日)

午後1:30～4:30

大阪市立総合生涯学習センター(第1研修室)

大阪駅前第2ビル・5階

プログラム

1. <事務局報告> チェルノブイリとフクシマを結ぶ
2. <対談>野口時子さん、佑芽さんを迎えて

～母娘で語る フクシマ事故8年の体験と想い

3. 質疑応答・討論

福島からのゲスト：野口時子さん・佑芽さん母娘のプロフィール：



野口時子さん



野口佑芽さん

2011年3月11日、東日本大震災・福島原発事故発生当時、野口時さんは専業主婦で、小学5年の娘(佑芽さん)、幼稚園年長組の息子、単身赴任中の夫の4人家族で福島県郡山市に暮らしていました。3月15日東京電力福島第一原発2号炉爆発の情報を受け、家族で実家の岩手県に一時避難しましたが、約一ヶ月後に郡山に戻りました。

同年6月、放射能の不安に悩みを抱えた子育て真っ最中のお母さんたち6人で集まり「子どもを守りたい」想いを話し合い、『安全・安心を求めて行動する会』を発足。10月に『3a!郡山』(3aは「安全・安心・アクション」)を結成し、時子さんはその代表となりました。『3a!郡山』では、安全・安心な生活の確保のために、日本各地や海外の人々とネットワークを築き、多様な分野の関係者の協力や支援を得ながら子どもを守る活動を展開。「お野菜マルシェ」(西日本を中心に安全・新鮮な産直・有機野菜を販売)、「健康診断の費用補助」「放射能測定」「保養情報の提供」などに取組んできました。2012年「救援関西」の招聘で来日したベラルーシのチェルノブイリ被災地の小児科医ベーラさん、元教師ヴァーリャさんが福島を訪問した際に『3a!郡山』でお母さんたちと交流したことが、「救援関西」と野口さんたちとの交流の始まりでした。

2018年1月『3a!郡山』は「発展的解消」。時子さんは、福島県で初の『福祉型専攻科 カレッジ郡山』の立ち上げに参加し、現在、将来息子が生活できるような施設の充実を目指しながら、日々試行錯誤、奮闘されています。

佑芽さんは、中学卒業まで郡山市で過ごし、岐阜工業高等専門学校に進学。現在19歳で建築科3年。2015～16年には、AFS(American Field Service)62期生、「みちのく応援奨学生」としてフランスのテヴィエ(アキテーヌ地方ドルドーニュ)の高校に8ヶ月留学。フランスの友人たちにもフクシマ事故被災の体験を語りました。

主催：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

<問合せ> 電話：072-253-4644(いのまた), 0797-74-6091(たなか), e-mail: cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

チェルノブイリ事故33周年の集いにご参加下さい！

チェルノブイリ原発事故から間もなく33年を迎えます。チェルノブイリ被災地では今も放射能汚染が続き、人々を被ばくから守るために国の責任で、環境放射線や食品放射能モニタリング、住民の健診などが続けられています。また、事故の記憶を風化させず、次世代に語り継ぐ努力もされています。

一方、事故から8年を迎えたフクシマでは、廃炉作業、放射能汚染・廃棄物、健康管理・医療保障、賠償・生活再建、等々、課題が山積していますが、政府は「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」の下、フクシマ事故の被害をなかったことにしようとしています。そして、放射能汚染や被ばく被害に対して不安に思っている多くの人々が声を出せない雰囲気があります。

事故後、様々な事情でフクシマに住み続ける選択をし、不安を抱えながら暮らし続けてきた人々、子どもたちを守るために学び、活動してきた人々。「集い」では、そんなお母さんのひとりである野口時子さん、そして娘さんの佑芽さんをお招きします。フクシマ事故8年の体験と想いを共有し、またチェルノブイリとフクシマを結んで、これからも私たちに何ができるか…ともに語り合いたいと思います。ぜひご参加下さい！

「救援関西」
の取り組み



広げ 深めよう！支援と交流

めざそう！事故被害者の人権と補償の確立

繰り返させない！チェルノブイリ・フクシマ
フクシマを「核時代」の終わりのはじまりに！

ささえる

- ◆ 被ばくリスクを減らす
- ◆ 被害者の健康と生活を守る
- ◆ 被害者自身の活動をサポート

つながる

- ◆ 互いに顔の見える関係
- ◆ 理解し、学び合う

ともにめざす

- ◆ 被害者の人権・補償の確立を
- ◆ 脱原発と再生可能エネルギーへ転換を
- ◆ 核被害のない世界をめざしましょう



ベラルーシの子どもたち
フクシマの子どもたちの保養支援



フクシマのお母さんたちとチェルノブイリ被災地の医師らとの交流
(2012年「3a!郡山」にて)

チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西
代表：山科和子（長崎・被爆者）
事務局：〒591-8021 堺市北区新金岡町 1-3-15-102 猪又方
TEL：072-253-4644
E-mail：cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

【郵便振替】00910-2-32752
名義：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

ホームページ
<http://wakasa-net.sakura.ne.jp/che/>